平成２９年生駒市教育委員会第１０回定例会会議録

１　日　時　平成２９年１０月３０日(月)　午前９時０６分～午前１０時２２分

２　場　所　生駒市役所　大会議室

３　審査事項

(1) 報告第１６号　平成２９年生駒市議会第４回（９月）定例会提出議案の結果について

(2) 議案第２０号　生駒市教育委員会表彰被表彰者の認定について

４　出席委員

教育長　中　田　好　昭

委　員（教育長職務代理者）	飯　島　敏　文	委　員	上　田　信　行
委　員	寺　田　詩　子	委　員	神　澤　　創
委　員	浦　林　直　子	委　員	坪　井　美　佐
委　員	レイノルズあい	委　員	西　井　久　之

５　事務局職員出席者

教育振興部長	峯　島　　妙	生涯学習部長	西　野　　敦
教育振興部次長	真　銅　　宏	教育総務課長	辻　中　伸　弘
教育指導課長	吉　川　祐　一	学校給食センター所長	奥　田　　茂
こども課長	前　川　好　啓	こども課指導主事	樋　田　良　恵
こども課指導主事	上　田　直　美	子育て支援総合ｾﾝﾀｰ所長	辻　本　多佳子
生涯学習課長	清　水　紀　子	図書館長	向　田　真理子
ｽﾎﾟｰﾂ振興課長	吉　岡　秀　高	教育総務課課長補佐	山　本　英　樹
教育指導課課長補佐	城　野　聖　一	こども課課長補佐	松　田　　悟
生涯学習課課長補佐	梅　谷　信　行	ｽﾎﾟｰﾂ振興課課長補佐	西　　政　仁
教育総務課（書記）	牧　井　　望	教育総務課（書記）	鬼　頭　永　実

６　傍聴者　なし

午前９時００分　開会

○開会宣告

○日程第１　議席の指定について

○日程第２　教育長職務代理者の指名について

審議結果　【飯島委員を教育長職務代理者に指定】

○日程第３　前回会議録の承認

○日程第４　会期・会議時間の決定

○日程第５　諸般報告

・１１月の行事予定について、辻中教育総務課長、清水生涯学習課長から報告

（質疑）　なし

○日程第６　報告第１６号　平成２９年生駒市議会第４回（９月）定例会提出議案の結果について

・平成２９年生駒市議会第４回（９月）定例会提出議案の結果について、辻中教育総務課長から報告

＜参照：議案書ｐ１＞

（質疑）　なし

審議結果　【報告のとおり承認】

○日程第７　議案第２０号　生駒市教育委員会表彰被表彰者の認定について

・生駒市教育委員会表彰被表彰者について、辻中教育総務課長から説明

＜参照：議案書ｐ２、資料１，２＞

（質疑）　なし

審議結果　【原案のとおり可決】

○日程第８　その他

・平成２９年度生駒市教育大綱アクションプランの取組状況について、辻中教育総務課長から説明

＜参照：その他資料１＞

（質疑）

飯 島 委 員：Ｂという評価について、単に実施途中であるのか、それとも実施してい

る中で順調に進んでいないということか。
辻 中 課 長：おおむね順調に推移していると考えていただいてよい。
寺 田 委 員：北コミュニティセンターのはばたきみっきが開所された件について、実際見学に行ったが、空間的に狭い印象を受けた。しかしＡ評価である。今後拡大するなど、充実させる予定も含めてのＡ評価なのか。
辻 本 所 長：本評価は、今年度開所できたことに対するＡ評価である。場所の問題もあり、受け入れ人数の増加などは難しいが、今後内容を充実していきたい。
坪 井 委 員：Ｂ評価について、実施途中ということだが、この評価には客観的な評価などは含まれていないのか。ビブリオバトル、生駒市の茶道体験など、Ｂとされている事業でも、実際に見学・参加して、良かったものも多い。アンケートの結果など、何かしらの客観的な根拠があるのか。
峯 島 部 長：今回お示ししている資料は、事業の進捗を表すものである。外部評価については、アンケートの結果などを踏まえて、点検評価報告書に記載する。今回報告させていただいているのは、中間時点での確認をしていただくために報告しているものである。
ﾚｲﾉﾙｽﾞ委員：教育大綱は、昨年、総合教育会議などで議論を重ね、策定し、具体的な事業については、昨年度から取り組んでいる。その中で具体的な取組ができているものが多く、１年前に話し合ったものが実際に形になっているのはとても嬉しく感じる。内容について、その他資料１の２ページに記載されている、ＩＣＴ機器活用モデルの壱分幼稚園での保育や教員研修と、ＡＬＴのコーディネーターを交えた英語教育について、具体的な現状報告を受けたい。
上田指導主事：壱分幼稚園のＩＣＴ機器活用については、１１月１０日に開催予定の県の放送教育公開保育に当たっており、年長組のＩＣＴ機器を活用した授業を公開する予定である。指導案はまだ届いていないが、タブレットに長けた教員がおり、ＩＣＴ機器を上手く活用した授業をしていただけると思う。
吉 川 課 長：ＡＬＴコーディネーターを交えた英語教育については、コーディネーターが週４回各小中学校に行き、ＡＬＴの先生に対し、指導案や指導方法について助言などをしていただいている。活発に活動してくださる方で、様々なＡＬＴの先生方と交流・意見交換し、現場を活性化していただいている。また、夏休みにはＡＬＴの交流会があり、悩みや今後の展望について話し合い、ＡＬＴの先生方も大変良い機会だったと言ってくださった。
また１、２年生の副読本についても、英語教育推進委員会でかなり完成形が見えてきている。１月の教育委員会定例会で、叩き台を提示し、ご意見を頂く予定をしている。１、２年生の１０時間分の日本語版・英語

版指導案も作成いただいている。

中田教育長：事業の進捗状況や現状について、活発に質問していただきたい。平成３０年度予算の編成も始まるころであり、また、来年度のアクションプランに関しても、現状を把握した上で議論していくことができればと思う。各事業の内容を理解していただくことが必要であると感じている。

飯 島 委 員：来年度に向けてという観点から、最終的な評価の段階で、何を目指しているのかがより明確になればいいと思った。例えば、ＩＣＴモデル事業では、現段階では端末を導入し、順調に推移しているようだが、最終的な目標としては、現在導入している学校で有効利用できていることで十分なのか、あるいは今後他校にも導入するまでを目指しているのかということである。

・教職員夏期研修の実施について、吉川教育指導課長から説明
＜参照：その他資料２＞

（質疑）

坪 井 委 員：藤原先生の研修会と、上田先生のワークショップに参加したが、大変良かった。このような企画をしていただき、大変ありがたく思う。

神 澤 委 員：ソーシャルスキルトレーニングとアンガーマネジメント研修について、講師が逆の方が良かったという意見があるようだが、講師の決定について、企画段階でどのように決めているのか。

吉 川 課 長：ソーシャルスキルトレーニングは地域ぐるみ健全育成協議会の研修会として企画した。毎年異なるテーマを定めており、今年はこのテーマとして実施したものである。また、アンガーマネジメントについては、子どもたちへの対応について、ここ数年、今までと違う角度から考えていくという流れがある。このテーマに関して、県教育委員会でも講演をしていただいている早稲田大学の本田先生という方がおられる。その本田先生の授業を受講し、知識も豊富な井芝指導主事が適任であると判断し、先生方に対して研修という形で実施させていただいた。

神 澤 委 員：子どものソーシャルスキルやアンガーマネジメントをどう教育するかではなく、教員に対する研修であると考えてよいか。

吉 川 課 長：そのとおりである。

中田教育長：アンケート実施については、以前の教育委員会で、委員の皆様から研修実施後には、アンケート調査をしていくべきという意見を頂き、今年度から実施している取組である。本アンケート結果をご覧いただき、教員向け研修の内容を知っていただければと思う。

・（仮称）生駒北学校給食センター整備運営事業者の審査結果について、奥田学校給食センター所長より説明

＜参照：その他資料３＞

（質疑）

中田教育長：補足説明であるが、本事業はＰＦＩという手法で、民間のノウハウを活用し、資金・技術・設計・建設・管理運営までを実施するものである。今回は、ＰＦＩ法に基づき、本事業に関する審査内容が適正であることを示す報告をさせていただいた。本報告は、既に市ＨＰで公開している。

飯 島 委 員：今回は、総合評価点の内訳として、性能評価点が５点差、価格評価点が１１０点差である。しかし、例えば性能評価点が１００点差、価格評価点が１１０点差である場合、性能面で大きく劣るものであっても総合評価が上回る、価格が安い事業者を選定するということか。

奥 田 所 長：そのとおりである。

中田教育長：価格と性能、どちらを重視するのかというお話だと思う。しかし民間は提示した金額の中で努力することが見込まれる。ＰＦＩの手法では、通常の工事などの入札とは異なり、総合的なノウハウを集積した結果の価格・性能を審査し、落札者を決定するものである。

・子育てを楽しめるまちづくりを考えるワークショップの実施について、前川こども課長より説明

＜参照：その他資料４－１，２＞

（質疑）

飯 島 委 員：本報告書を見ると、参加された方にとっては、他のグループでどのような話題が出たのかが分かるし、また、参加していない方にとっては、何が行われたワークショップなのか分かりやすい。このような報告書があるのは有り難い。

中田教育長：今後、このワークショップで出た意見をどのように活用するのか。

前 川 課 長：子ども子育て会議における「就学前教育・保育のあり方に関する基本方針」の策定過程において活用していく。次回の教育委員会定例会にて、基本方針（案）をご報告させていただく予定である。基本方針は、基本方針の概要・本市の現状・本市の課題・課題解決に向けた方向性の４つのセクションに分かれている。ワークショップにおいて、就学前教育・保育に関しては、保育所・幼稚園間での交流や保幼小の連携などが、また支援を要する幼児への対応については、各園への専門的な見地を持つ方の配置といった意見が挙げられた。そのような意見を抽出したものを基本方針の中の課題解決に向けた方向性として、記載する予定である。

浦 林 委 員：ワークショップに参加した保護者は１２人であるが、このようなワークショップに対して意欲的で、かつ実際に参加できる保護者の方は限られていると感じた。子育てに悩みを持っている方など、このようなワークショップに参加できない方も多いだろう。たくさんの家庭にアンケート

を送るなどすれば、より幅広い意見を反映できると考えられるが、そのような意見の吸い上げなどは行っているのか。

清 水 課 長：本案件後に報告する予定であるが、生涯学習課において、家庭教育に関するアンケートを行っており、様々な課題が出てきているので、それも活用できるのではないかと考えている。

浦 林 委 員：現段階では本アンケートを活用をするという予定はないのか。

清 水 課 長：現段階では、基本方針の策定に活用する予定はない。

峯 島 部 長：今年度は、今後の就学前教育・保育について、ハード面を中心とした第１次提言を考えている。来年度には、第２次提言として、地域・保護者の子育てに対するソフト面での提言を予定しているが、このアンケートを活用できると思う。ただいまの意見を頂戴し、部は違うものの横断的に活用できるものなので、今後のワークショップなどでも活用していきたい。

・家庭教育に関するアンケートの調査結果について、清水生涯学習課長より説明
＜参照：その他資料５－１，２，３＞

（質疑）

飯 島 委 員：経済的余裕がある方に多く回答いただいている気がする。アンケートの中に具体的に関連付けられるような項目があるのではないかと考える。例えば回答者の９５．８％が女性であるが、これは父子家庭世帯の割合を省いたら、子育ての担い手はすべて女性なのか。また、子どもの人数の平均値は、生駒市の１世帯当たりの子どもの数と比べて、どう異なるのか。外部の数値と本アンケート結果を照らし合わせて、どのような層からの回答が多いのかという、偏りについて研究できるはずであるので、アンケートの有効活用のためにも是非お願いしたい。
また、講座への参加について、調査の各項目との相関関係を調べてほしい。講座の参加者が、先生との情報共有や保護者同士の交流等についても積極的な方で、講座にも興味関心があり、事前知識を持って参加しているのか、それともそのような知識がなく、家庭教育に不安を持っているから参加しているのかなど、分かるだろう。それによってワークショップの内容も変わってくるはずである。

上 田 委 員：今回のことで、保護者同士・地域内での交流が少ないことが読み取れる。講座は学ぶだけでなく、受講者同士の交流の機会になればいいと思う。講座終了後に交流会などの機会はあるのか。

清 水 課 長：生涯学習課で行っている幼稚園の家庭教育学級では、いくつかのテーマをこちらから提示し、テーマに沿った講師の決定などを保護者の方にお願いして実施してもらっている。保護者の方が集まられる場であるので、交流は図れていると思う。また共働き家庭が多い現状で、平日開催では

父親・母親共に参加できない方も多く、配慮が必要であると感じている。

中田教育長：生涯学習課のアンケートの目的は、子どもを地域で育てていくための取組を進めていく上での情報収集である。核家族化が進む中で、地域の相談役となる家庭教育支援員が必要になってきている。事務局は、ワークショップを通じて、地域の中での家庭教育支援員の人材確保、団体のネットワークづくりに取り組んでくれている。教育振興部は学校教育の観点から、生涯学習部は地域との関わりから、子育てに対して取り組んでいるが、連携が図りきれていない部分があるので、その部分は教育委員会としての課題である。

西 井 委 員：学校では保護者懇談会を実施するが、クラスによっては３～４人ほどしか参加されないことがあった。資料の見直しや資料の事前提示などの工夫をしても数パーセント上がる程度であった。他市町村は、もう少し参加してくれていた印象があるので、これも本市の特性なのではないかと思う。また、教育相談室に勤務していた時、困っている方から電話を頂くが、誰にも言えないので、勇気を振り絞って電話したという雰囲気を感じ、地域で孤立しているのだろうと思うことが多かった。本市では困っていることを地域の方に言いづらい部分があるように感じる。

・オレンジリボンキャンペーンの実施について、辻本子育て支援総合センター所長から説明

＜参照：追加その他資料１＞

（質疑）なし

・委員からの報告

浦 林 委 員：近畿市町村教育委員会研修大会のため、坪井委員とともに和歌山に行かせていただいた。６００人ほどの参加であった。和歌山県教育長からのご挨拶で、和歌山では県・市町村教委の交流があると仰っていて、生駒市では奈良県との交流の機会がないので印象的だった。

内容としては、和歌山大学教育学部の武田教授から「発達障害のある子どもと向き合う」というテーマの講演、義務教育学校を作られた守口市からの実践発表があった。発達障害の子どもに対して「叱らないけど、譲らない支援」をすべきだと仰っていた。また、不登校の４分の１が発達障害であるという。そのような子どもに対しては、支援員とその子どもの間で、その子の思いをくみ取る合意形成が必要とのことであった。しかしその一方で、他の４分の３の子どもたちは、どのような支援をしていくのかという点が気になった。もしかしたら発達障害の子どもたちよりも難しいかもしれないと感じる。

坪 井 委 員：和歌山大学の武田教授からのお話の中で、発達障害のある子どもたちに

対する、提案と交渉に関する説明があった。２０１４年、国際障害者条約に日本が批准し、教育の現場でも equality－平等と equity－公平性が導入された。例えば、塀の向こうの野球観戦をするのに、子どもたちを同じ高さの台に乗せるのが平等である。一方、台が不要な子もいれば、その台の高さでは見えない子もいるので、必要な子に必要な分だけ台を与えるというのが公平性である。もともと経済の分野で使用される概念であるが、教育現場でも使われるようになったということが印象的であった。本研修は教育委員が対象であったが、現場の先生方にも共有していただき、現場に還元していってもらいたい。

○閉会宣告

午前１０時２２分　閉会